

【生駒市】地域ケア会議の発言要旨

発言者	発言要旨
司会者 (保険者)	Oさんの3か月後の目標である、自宅周辺の散歩が習慣化できる、通所型介護予防事業(パワーアップ教室)でのボランティアに参加できる、ということに対する現状について、担当包括より説明してください。
担当包括 (看護師)	<p>膝関節症があり、ADLに支障があった。膝の手術を2回した。関わり自体は膝手術前からあった。</p> <p>2回目の膝手術後、家の中での歩行困難。介護予防事業(2次予防事業)の教室で機能回復を目指してきた。</p> <p>週2回の通所型介護予防事業(パワーアップ教室)で、手術前の元気を取り戻してきている。</p>
司会者 (保険者)	Oさんに関わりをもった人からそれぞれ説明をしてください。
理学療法士 (助言者)	<p>Oさんは全般的な機能回復が見られる。特に、下肢筋力、持久力、柔軟性の回復が見られる。</p> <p>2回目の手術＝左ひざの稼働域制限により生活に支障があったところ、通所型介護予防事業(パワーアップ教室)の参加で改善がみられる。</p> <p>杖を使った長距離歩行ができるようになった。今後も自主トレーニングをやっていける模様。</p> <p>今後は稼働域が広がり、介護予防ボランティアという役割を持っていけば、状態の維持・改善が図られると想定。</p>
司会者 (保険者)	<p>アセスメントシートのADL、IADLの事後評価は向上している。3か月前に自宅から出られなかった人が、週2回の通所型介護予防事業(パワーアップ教室)に通い、外出できるようになった。</p> <p>その改善の背景・要因について、参加者全員で議論したい。</p> <p>このOさんはもともと集団に馴染めない人であったが、今では多くの人に馴染んできた。この変化はなぜだろうか。</p>
通所介護事業者 (2次予防事業委託先)	<p>Oさんは当初、通所型介護予防事業(パワーアップ教室)に参加するにあたり、効果に懐疑的であった。しかし、今回、同じ疾患を抱えた人たちが集まり切磋琢磨したことで、前に進めたのではないかと。</p> <p>また、ボランティアの中にも通所型介護予防事業(パワーアップ教室)の終了者で膝関節症を克服して活動している人もいたので、そういった人に囲まれて過ごせたのがよかったのではないかと。</p>
司会者 (保険者)	他に意見がある人はいますか。
A包括職員 (看護師)	膝関節症の人たち同士の支え合いが見られたところだが、ADLが大幅に回復するところまで持っていくのにどういった工夫があったか。

発言者	発言要旨
<p>通所介護事業者 (2次予防事業委託先)</p>	<p>それぞれの人の置かれている環境が異なる。そういった人たちに一律に頑張れと言ってはいけない。</p> <p>〇さんはもともと通所型介護予防事業(パワーアップ教室)の効果に懐疑的であったが、実際には色々できるようになり自信を回復してきた。</p> <p>ただし、その過程の中でも痛み等を訴えていた。そのことを医師も含め傾聴してきた。</p> <p>中間期では気持ちが先走っていたが、そこをあわてさせず、無理をさせなかった。</p>
<p>司会者 (保険者)</p>	<p>〇さんは途中、具体的にどういうことを言っていたのか。</p>
<p>担当包括 (保健師)</p>	<p>自分と同じ症状の人がいるのか、その人はどんな風に過ごしているのか、ということを知られた。</p> <p>時間をかけて同じ症状の人がいること、そういった人が元気に過ごしていることを伝えた。</p> <p>最初、〇さんは通所型介護予防事業(パワーアップ教室)をデイサービスのよう捉えており、抵抗感が強かったが、ADLが大分落ちてきて参加を決意した。</p> <p>通所型介護予防事業(パワーアップ教室)の中に理学療法士がいることで、定期的な運動ができた上で専門家の助言もいただいた。</p> <p>また、中には同じ気持ちの人がいて気持ちも分かち合えた。これら全てが合わさり、積極的になれた。</p>
<p>司会者 (保険者)</p>	<p>理学療法士に聞くと、膝関節症の痛みを抱えた方が3か月で卒業したが、リハ職の方にとって、痛みの評価はどうか。</p>
<p>理学療法士 (助言者)</p>	<p>痛みがあると不安になり活動性が落ちる。自分ができない、と思うようになり筋力、体力が落ち、力がなくなるので、ますます痛みが増幅する。</p> <p>痛みが強くなり、炎症症状が出れば、通所型介護予防事業(パワーアップ教室)での運動をストップするが、それまでは動いた方がよいということを伝え、自信をつけてもらう。</p> <p>通所型介護予防事業(パワーアップ教室)において、〇さんが見守られた状況の中で不安なく運動をすることでよくなっていった。</p> <p>また、同じような痛みを抱えた仲間がいたことも回復要因としては大きい。</p> <p>今後は、地域に戻るが、そこで引き続き自信を持って動いたもらうことが大事である。</p>

発言者	発言要旨
<p>司会者 (保険者)</p>	<p>このケースは、要支援者の整形外科的疾患と廃用性のある人の特徴的なケースである。</p> <p>〇さんは、今回の教室参加は要介護認定を取り下げた参加である。</p> <p>今後はバスと徒歩にて通所型介護予防事業(パワーアップ教室)のボランティアに参加する、辞めていたジムを再開することを目標にする。</p> <p>支援方針としては、モチベーションを維持し、自立した生活ができるよう通所型介護予防事業(パワーアップ教室)のボランティア参加時に定期的にモニタリングするといったものだが、他に付け加えることは何かあるか。</p>
<p>通所介護事業者 (2次予防事業委託先)</p>	<p>今回、〇さんがボランティアとして上手く馴染めなかったときに、早めに介入しないと活動が委縮する心配がある。</p>
<p>A包括職員 (社会福祉士)</p>	<p>仮にそうなったときに、通所型介護予防事業(パワーアップ教室)のボランティア、担当包括、通所介護事業者が連携を深めて、本人に対し介入するサインをどうやってキャッチするのか考えておく必要がある。</p>
<p>担当包括 (保健師)</p>	<p>〇さん、その家族と担当包括では、そういったサインをちゃんと出してくれる関係性が築けており、過剰な介入は逆に避けた方がよい。</p>
<p>A包括職員 (保健師)</p>	<p>本人がSOSを出すタイミングと包括職員がキャッチするタイミングがずれることがあり、難しい。</p>
<p>(この後、同様の膝関節症の方の終了期を2事例取り扱う)</p>	
<p>司会者 (保険者)</p>	<p>3名(まとめて)膝関節症で痛みの中で廃用性が進行するケースを扱ったが、この3名に共通していたことは何であったか。</p>
<p>(参加者全員で議論を深め、司会者(保険者)が総括をする)</p>	
<p>司会者 (保険者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3名とも明確な目標があったことが大きい。 ・自分たちでこうなりたい、以前の生活を取り戻したいという明確な意思表示ができた。 ・家庭の中で、御隠居さんではなく役割を獲得できる環境であった。 ・同じ痛みを持つ仲間と思いを分かち合える環境があった。 ・集中介入期における通所介護は新総合事業に移行する。対象者の選定のイメージを全員に持ってもらいたい。

発言者	発言要旨
《ホワイトボード》	膝関節症によるきつい痛み→不安→歩行おっくう セラピストに相談して少しずつ不安軽減 同じ境遇にあるメンバーとの話し合い→メンタル面の向上(分かち合いの環境) 少しずつ状態が改善 家庭内での役割がある 具体的な目標を持っている
(さらに議論を深めていく)	